

高校での探究活動を評価・支援

崇城大学の入試改革 県内SSH校と強い連携

熊本市に立地する崇城大学(小野長門学長、薬学部、生物生命学部、工学部、情報学部、芸術学部)は、高校の探究活動の成果を入試の可否に利用する「探究活動支援入試(プログレス選抜・アピール選抜)」を実施している。2024年度4月には、アピール選抜で12人、プログレス選抜で3人の合格者が入学した。この取り組みについて、山本朝昭入試広報部長に聞いた。

山本部長に聞く

SSH校との連携
山本部長の前職は熊本県立第二高等学校の校長である。同校は、2003年にスーパーサイエンスハイスクール(SSS)の指定を受け、現在は第5期目が進行中である。山本部長は指定4期目の取り組みのひとつとして探究型授業の開発に取り組んだ。

「探究学習を推進し、その質を高めていくには大学のリソースを活用することが必要だと感じていました。大学教員や研究施設利用といった支援がなければ、高校だけでは限界があります。さらに、高校で見いだした探究のタネを活かして、探究の成果を継続・発展させていく仕組みが必要だと考えていました。」

一方、同大学は従前から積極的に高校の課題研究や探究活動を支援し、理系人材の育成に寄与してきた。「県内に5校あるSSH校の全てに運営指導委員を派遣していたり、出張講義をしたりと、高校側のニーズを積極的に支援していただき、高校の先生達から図るとともに、高校から大学へのシームレスな学びを実現させることをねらった。」

こうして2023年度入試から探究活動支援入試がスタート、「プログレス選抜型」と「アピール選抜型」を新設した。学力だけではなく、探究学習の活動歴と入学後の目的意識で大学を決める新しい選抜方法になる。

「プログレス選抜(専願)」は、高校で本学教員の探究支援を受けた生徒を対象とします。入学後はすぐに担当教員の研究室に配属され、高校時代に温めた研究を継続することが出来ます。一方、アピール選抜(併願可)は、探究活動や課題研究に力を入れた全国の生徒を応援する入試で、高校時代の学びの経験をアピールします。」

「プログレス選抜の対象となる研究支援テーマ

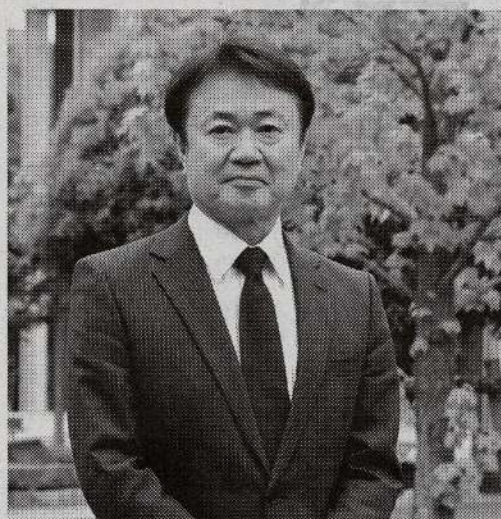
は、生徒たちが取り組む探究活動の質が大きく向上したと好評です。そして、私が定年後に本学に移ったとき、この支援の在り方と入試を結び付けたいという思いが湧き、探究活動の質を高め、探究のタネを活かして、探究の成果を継続・発展させていく仕組みが必要だと考えていました。」

このような背景のなか、2021年に熊本県内SSH5校による「熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)」が立ち上がり、同大学はKSCとの高大連携協定を締結。相互の協力の下で科学系人材の育成を目指す取り組みを開始。研究支援による高校生の研究の質向上を図るとともに、高校から大学へのシームレスな学びを実現させることをねらった。

こうして2023年度入試から探究活動支援入試がスタート、「プログレス選抜型」と「アピール選抜型」を新設した。学力だけではなく、探究学習の活動歴と入学後の目的意識で大学を決める新しい選抜方法になる。

「プログレス選抜(専願)」は、高校で本学教員の探究支援を受けた生徒を対象とします。入学後はすぐに担当教員の研究室に配属され、高校時代に温めた研究を継続することが出来ます。一方、アピール選抜(併願可)は、探究活動や課題研究に力を入れた全国の生徒を応援する入試で、高校時代の学びの経験をアピールします。」

「プログレス選抜の対象となる研究支援テーマ



山本朝昭入試広報部長

は、機械工学やナノサイエンス、情報や美術など学部構成に沿ったものとなる。支援を受ける高校生と支援する教員とのマッチングは、①KSCとの協定、②「ディスカバ！」という全国の高校生とのキャリア支援プロジェクト、③高校からの支援リクエスト、といった3つのチャネルがある。

の指導で、SSH活動の改善に繋がったのが天草高校だった。当時高校生の池田さんは、田丸教授の指導の下で、仲間たちと、海藻のアマモの研究を深化させた。この成果を持ってプログレス選抜に臨み、長濱一弘教授の研究室に見事合格した。池田さんは、入学式当日から研究室を訪れ、毎日彼も長濱研究室への合格が決まった。

確かに、研究室に新入生が参加するインパクトは大きい。同じ研究室の先輩学生たちも大いに励みになる。また、同年の学生達にも刺激を与え、そして、学生の母校の後輩生徒たちもモチベーションアップになる。いわば、彼らの存在は刺激の触媒になっているのである。

「卒業を控えた先輩の姿を見ることがキャリア教育にもなっています。卒業後は大学院に進学したり、海外留学をしたりと研究活動の継続ができるようなキャリアを歩んでほしい。」

なお、「ミライクST EAM」というプログレス選抜対象者のみの特待生制度も用意した。4年間の授業料が年50万円になるというものだ。

授業後や授業の合間に研究室に通うなど、意欲的に研究を続けた。学部生はもちろん修士や博士課程の先輩からもアドバイスを受け、長濱教授は海外研修や国際会議に同行させた。2024年度入試では、この活躍を知った天草高校の後輩が早速プログレス選考に挑戦。

「新入試創設当時の中

山本部長は、熊本のみならず、九州各県でSSH校のコンソーシアムがつくられて、九州サイエンスコンソーシアムにまで育てられれば、さらに支援の枠組みは拡大していくのではないかと山本部長は展望する。

崇城大学の探究入試は、高校から付いた心の灯を消すことなく、燃やし続ける制度として、広く普及していくだろう。